

## 令和2年度尼崎市立園田南小学校 学校評価報告書



### 教育目標 自ら学び、共に生きる心豊かな子どもを育成する

#### ●み(知) …みんなで学ぶ子

①学力向上 ②言語力向上 ③指導力向上（表現力）

#### ●な(徳) …なかよくする子

④規範意識の育成 ⑤あいさつ運動 ⑥異学年交流（特別活動）

#### ●み(体) …みんな元気だ

⑦体力向上 ⑧健康 ⑨食育

#### みなみっ子



園田南小学校では学校評価を通じて学校教育の改善と、児童・保護者・地域のニーズに応える学校づくりを目指します。

校長 佐藤 喜代子

尼崎市立園田南小学校

〒661-0974 尼崎市若王寺1丁目1番1号

TEL：(06)6493-6821 FAX：(06)6493-6822

### 学校評価の目的（文部科学省）

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

### 総合評価とまとめ 【総合評価：2.7】

学校目標「自ら学び共に生きる心豊かな子どもを育成する」を具現化した「めざす子ども像」により、「㊦(知育) みんなで学ぶ子」「㊧(徳育) なかよくする子」「㊨(体育) みんな元気だ」「㊩(心) なかよくする子」と子ども達と教職員が目標に向けた取り組みを続けています。

今年度の評価は、㊦㊧㊨各部会の評価と学校評価を一体化させる為に4段階評価に変更しました。厳しい目での評価となっていますが、コロナ禍の影響で計画が実施できなかったことがたくさんあり、それが評価につながっていると思われます。

「知育」面では、全国学力・学習状況調査は中止でしたが、市で実施しているステップアップ調査で経年比較と分析をすることができました。国語・算数ともにおおむね全国平均を上回るか同程度という結果となりましたが、前年度の伸びと比較して、学年によっては平均を下回る教科がありました。「書く活動や伝え合いを通して深め合う」ことを研究で取り組んでいるものの、条件のある記述式問題において、また課題が見られます。今後も継続して、複数の資料や情報から必要なものを取り上げて論理的に整理して表現できるように取り組む必要があります。「書く力」の向上に向けて、辞典等の活用を含め、活字に触れる経験を増やして語彙力を高め、積極的に書く習慣を様々な学習を通して行っていきます。算数では、今までの取組が奏効して計算問題など基本的な力は定着しているといえます。一方で、それらを活用する力や計算以外の領域、式や言葉を使って説明することなどに課題があることから、それを意識した帯学習、放課後学習などに転換していきたいと考えます。

決められたことを真面目に取り組む姿勢がある反面、自分から自主的、計画的に取り組む学習や間違えたところのやり直しや復習が不足していることから、家庭学習、自主学習等を更に充実させて「学びに向かう力」を育成していきたいと考えます。自主学習では、いいものを掲示して意識付けさせるとともに、教職員に共通理解する機会をもつことで系統立てた自主学習へと進化させています。学習が広がり、達成感や充実感につながる学びを目指しています。

今年度は、分散登校などの影響で朝の帯学習「みなみっ子タイム」が確保できず、計画的な基礎学力向上の取組が不十分であったことが伸びに影響していると思われます。放課後学習も2学期からの実施となったため、今後は課題を意識した内容を検討し、計画的に学力向上につなげていきたいと考えます。今後も「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の充実を図れるよう発信し、学校と家庭との両輪で、積み重ねを継続させていきます。

言語力に関しては、読み聞かせを中止しましたが、図書ボランティアの方々の協力があり、図書室の活用が定着しています。今年度取り組んだ並行読書などを継続して語彙力につなげ、「対話的な学び」を中心に考える力をつけ、「深い学び」につながるように充実させて参ります。

「徳育」面では、全校生での朝の「あいさつ運動」を中止したため、校内や昼休みに生活安全委員会を中心に取り組んできました。今後も、子ども達中心にあいさつや規範意識を育て、更なる内面的資質の向上を目指していきます。また「特別の教科 道徳」を軸に計画的に授業づくりや評価の研究を行い、特別活動では異学年交流を通した思いやりや親切心の醸成など学校全体で心の教育の充実を図っています。また、規律の徹底をめざし、教職員の共通理解を図ります。

「体育」面では、感染症予防対策を取りながら、体育部を中心に授業改善や体育的行事に取り組みました。子ども達が楽しみながら運動に親しみ、健康的な体づくりや体力の向上を目指して、体育大会を工夫し、ペア学級とのなわとび遊びなどできることを考えて実施しました。今後は状況を見ながら、やれることを増やしていき、更なる授業改善、特別活動などとも連携した「自ら楽しむ体づくり」に取り組

みたいと考えます。

コロナ禍で学校生活様式が大きく変化しましたが、感染症予防のために子ども達が自分で体を守る習慣づくりを徹底することを目指しました。委員会活動を活かし、手洗いや姿勢についても発信しました。食育は、例年実施してきたことが制限されましたが、できる範囲で外部人材を活用し、委員会活動で動画作成を行うなどの工夫をしました。今後も、さまざまな活動を継続して実施し、健康的でバランスのとれた体づくりに努めていきます。

保護者アンケートでは、子ども達の学校生活に関して昨年度同様の傾向がありました。一方で、学校行事やオープンスクール、授業参観などの中止や縮小で参加したくてもできない状況や前もって予定や計画の詳細が伝えられないことがアンケート結果につながりました。来年度に向けて、感染対策を施しながら行事の持ち方を工夫し、中身の精選をしたうえで必要なものを実施するよう努めてまいります。改善に向けた具体策やまめな情報発信の必要性をご意見から再認識しています。PTAと力を合わせて、行事の工夫や安全対策、地域との連携を強化することなど、いろいろなご意見を参考にしていきたいと考えます。

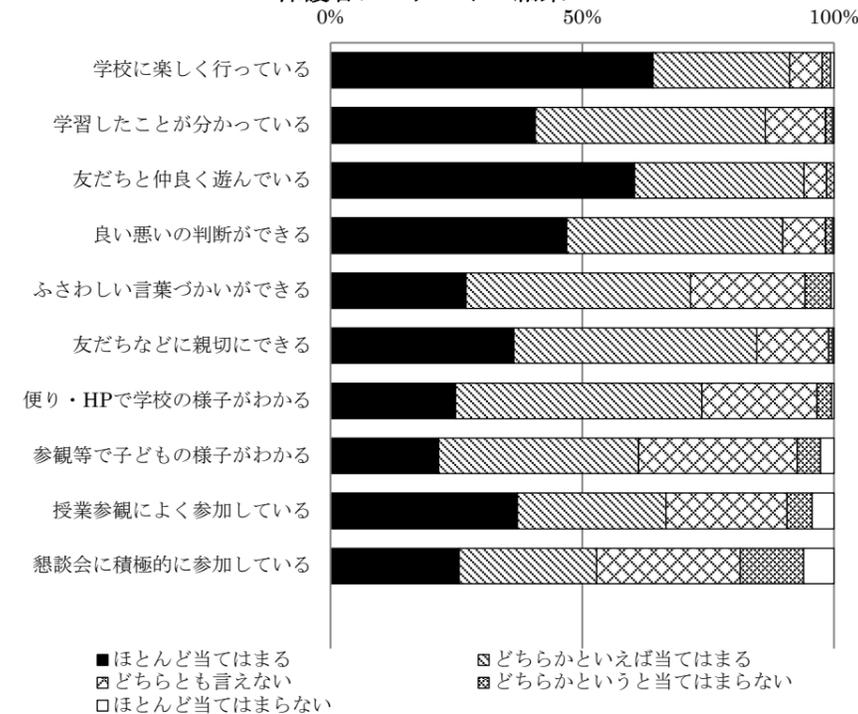
今後とも、さまざまな課題解決に知恵を出し合っって組織的に取り組み、安心して信頼のできる開かれた学校をめざし、家庭や地域の皆様の理解と協力を得ながら教育の向上に努めて参ります。

### 評価基準

各項目の点数は教職員が、以下の基準で取り組みを評価しました。

- 4 十分達成できた
- 3 達成できた
- 2 取り組んでいるが成果は十分ではない
- 1 成果が不十分である

### 保護者アンケートの結果



## 各取り組みの内容と評価

### な(徳)：なかよくする子

#### ④ 規範意識の育成【評価：2.6】

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養い、よりよく生きるための指導を道徳の時間を中心に行ってきました。

「特別の教科 道徳」として、教科書を使用して授業を行っています。どの学年も道徳ファイルを作成し、授業ごとの振り返りを綴っています。子ども達が学んだことや考えたことをファイルに綴っていくことで、子ども達の心情の変化や成長が目に見えて感じられました。今後は授業で学んだことが子ども達の実生活に結びつき、道徳的な実践力の向上を図ってきたいと思います。

また、特別活動やあいさつ運動なども連携を図りながら、児童の更なる内面的資質の向上を目指していきます。

#### ⑤ あいさつ運動【評価：2.5】

あいさつは社会生活を送る上で欠かせないものであり、他者と関係を築く第一歩と考えます。本校では、気持ちのよいあいさつをする習慣を身につけ、適切な人間関係を築くことのできる子どもを育てることを目標にしています。

昨年度まで、一日のスタートとなる「おはようございます」に重点をおいてあいさつ運動を続けて来ましたが、残念ながら今年度は感染症予防や分散登校があったため、朝のあいさつ運動の実施は見送りました。そのような中、児童会役員を中心にあいさつ啓発運動を行い、子ども達からあいさつの大切さを伝えました。

校内でのあいさつは高学年を中心に、自分たちからあいさつをするようにはなってきましたが、朝のあいさつはマスクをつけているせいゆえにまだ声が小さいです。今後は、これまで以上に職員から率先してあいさつを行い、あいさつの良さや大切さを啓発していきたいと思えます。人間関係の基本となるあいさつが習慣づけられるよう、継続して指導していきます。

#### ⑥ 異学年交流（特別活動）【評価：2.6】

同じ学年の集団ばかりでなく、異なる学年の集団とも仲良く関われるように、1・6年生、2・4年生、3・5年生で異学年同士のペアを作り、活動を行ってきました。

今年度は感染症対策のため、1年生を迎える会や南小祭り、なかよし給食など、1度に多くの児童が集まる行事が実施できませんでしたが、その分児童会の子どもたちが中心となり、クイズスタンプラリーなどのペア遊びを企画し、少しでも異学年交流ができる場を設けることができました。

どの学年も、ペアで交流したときには仲良く活動し、高学年が低学年の見本となって頑張ろうとする様子が見られました。しかし、交流活動がない期間に異学年との関わりを深めるのは、例年以上に難しかったように感じます。

異学年で交流していく中で、低学年の高学年に対するあこがれの気持ちや高学年としての自覚や思いやりなどが芽生えると考えています。来年度は、ペアや異学年で積極的に関わりを深められるよう、普段の生活から交流できる活動を増やしていきたいと思えます。

### み(知)：みんなで学ぶ子

#### ① 学力向上【評価：2.9】

今年度は、新型コロナウイルスの影響による分散登校のため、11月から朝学習「みなみっこタイム」を開始しました。基礎基本の定着を目指し、全学年が朝の20分間、集中して読書や漢字練習、計算問題などに取り組んでいます。放課後学習も10月から開始しました。また、興味関心のある内容を主体的に追究して学ぶ「自主学習」には継続的に取り組みました。より学びの質を高めるために、学年を越えて交流（みなみっこ学びの広場）するとともに、「みなみっこ自学ノート図鑑」を作成しました。これは、子どもたちの自学ノートのコピーを集録したファイルで、各クラスに配布しています。この「みなみっこ自学ノート図鑑」を活用することで、課題の見つけ方や追究の仕方、ノートのまとめ方への理解を深めることをねらいとしています。

子どもたちの学力向上には、ご家庭や地域の協力が必要です。各家庭に配布している「学びの手引き」には、具体的な学び方やモデルが示されています。今後もより一層、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちに働きかけ、基礎基本の定着はもちろんのこと、何事も主体的に追究し学びを深められる力を育てていきたいと考えています。

#### ② 言語力向上【評価：2.8】

今年度は感染症対策のため、司書教諭やお話ボランティアによる読み聞かせを実施することができませんでした。しかし、そんな状況でも児童に様々な本と出会い、読書に親しめるように、本のリクエストボックスを設置し、子どもの希望を多く取り入れながら、教職員と言語力向上職員で連携して本を選択しました。

1・2年生は80冊以上、3～6年生は8000ページ以上読んだ児童の名前を掲示される読書の山にも挑戦しました。また、図書ボランティア「ぶっくママ」さんには本の装備やしおり作り等をはじめ、図書室の環境を整えていただきました。今年度はおすすめの本のポップ作りにも取り組んでいただき、子どもたちが読んだことのない本に興味を持つきっかけを作ることができました。「たくさんの人に楽しく本を読んでもらう図書室にしよう」と目標を立てた図書委員会では、読書週間での朗読や読書クイズ、しおりリクエスト券の配布、また本の紹介ポップ作り等、児童が主体的に活動しました。

朝読書や読書記録への継続した取り組みにより、読書の習慣が身につけてきています。来年度も児童が本に触れられる機会を多くつくっていききたいです。

#### ③ 指導力向上（表現力）【評価：2.7】

新学習指導要領の全面実施に伴い、本校では「国語科」を中心に『言葉による見方・考え方』の育成に取り組んでいます。文章に出合った際は、様々な言葉に着目して自分の考えを持ち、さらにそれを話し合い活動によって広げたり深めたりすることを意識して学習に取り組んでいます。

自分の考えを持つには、「語彙力」と呼ばれる『言葉をどのように理解するか』『どのような言葉で表現するか』に直結する力が必要です。本校児童は自分の考えを友だちに聞いてもらったり、書いた物を読み合ってアドバイスをし合ったりする活動を通して、自分の考えに自信をもったり、友だちとの考えの違いに気付いたりすることができています。これからも、このような学び方を意識しつつ、基礎学力の向上と、表現力の育成に資するような指導を続けていきます。

### み(体)：みんな元気だ みなみっ子

#### ⑦ 体力向上【評価：3.0】

「子どもたちが運動を楽しみ生涯にわたって運動に親しむことができる素地を育てるとともに、健康的な体作りと体力の向上を目指す」という目標のもと、感染症予防対策を取りながらも体育部を中心に授業改善や体育的行事に取り組んできました。

それぞれの運動が持つ楽しさに触れられるよう授業を展開することで、休み時間にも運動やスポーツに親しむ児童が増えてきました。

体育大会は、「日常では経験できない大集団で運動やスポーツに親しむ」ということを目標に実施しました。残念ながら保護者や地域の方を交えて行うことはできませんでしたが、全校生で体育大会を実施することができました。当日は、日常ではなかなか経験することのできないスポーツの楽しさに触れる良い機会となりました。

3学期には、今年度も「みなみっ子なわとびあそび」としてペア学級で大縄遊びと短縄遊びに取り組みました。その結果、寒い時期でも学年・性別を超えて、運動場でなわとびを楽しむ姿が多くなりました。今後も子どもたちが様々な遊びに触れる機会を増やし、運動を楽しむながら体力を向上させることができるようにしていきたいと思えます。

#### ⑧ 健康【評価：2.7】

今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、子ども達が自分で体を守ることができる習慣づくりが益々大切になりました。そこで、教室に入る時には、石鹸で手を洗いハンカチで拭くこと、教室を出る時には消毒をすること、マスクをつけて生活することの習慣化に取り組んできました。また、教室の窓を開け換気に努めてまいりました。

保健委員会では、各階の水道の石鹸チェックを行ったり、手洗い・消毒・マスクのポスターを作り呼びかけたりしてきました。2月には、保健委員会制作の「よい姿勢・手洗いの大切さ」のビデオを放送し、日頃の姿勢や手洗いについて、もう一度見直す提案を行いました。

ご家庭に向けては保健だよりを発行しました。欠席者は、例年増加傾向にある12月1月も、インフルエンザによる欠席が0人という状況です。手洗い・消毒・マスクの習慣化がインフルエンザの感染防止にも大きな効果があったようです。本校で継続して取り組んできた清潔なハンカチを携帯し石鹸で手を洗うことの大切さを、改めて感じた年でもありました。来年度も、子ども達が自分で体を守れるように取り組んでいきます。

#### ⑨ 食育【評価：2.7】

望ましい食生活を知り、実践しようと励む児童の育成を目指して、健康的な食生活の意識向上に取り組んできました。各学級での食育指導、給食便りの発行などを定期的に行っています。給食週間には、調理師さんへの感謝の手紙贈呈や給食室での調理の様子、調理師さんからのメッセージなどを盛り込んだ動画を作成し、給食委員会が発表しました。普段見られない給食室の中の様子を知ることができ、クイズや掲示物などを通して、食べものや食生活に興味を持つ機会になりました。

給食試食会やオープンスクール時の食育授業はできませんでしたが、給食エプロンの補修活動には多くの保護者の方々に参加していただきました。また、高学年では「出汁」や「魚」をテーマにした調理実習の食育出前授業を実施することができました。

日々の給食においては、給食委員会の児童が満立についての掲示を行うことで関心を高め、各学級で配膳時や食事の衛生管理に細心の注意を払いながら、個々の児童に合わせた配食量の工夫をしています。毎年の残食調査の結果から、残食量は少ない状態で継続できています。今後も子どもたちが栄養のバランスや規則正しい生活の大切さを知り、健康な体づくりに繋がるよう継続的な食育指導に取り組んでいきたいと思えます。